

資料紹介

八代焼 《灰釉獅子香炉》(上野東四郎(扇山)作、江戸時代)

現在、当館美術工芸分野では専門家の協力を得て資料調査を進めることにより、コレクション内容の把握に努めています。今回は現在調査中の陶磁器類の中から、江戸時代(19世紀)に作られた八代焼の《灰釉獅子香炉》(登録番号 22-16.070)をご紹介します。

口を横に大きく開き、にんまりと笑っているように見える獅子の顔(前歯の間からは少し舌が出ています)。頭部と胴部の比率は、8:2といったところでしょうか。大きさは総高 11.2 cm で、顔の迫力のわりに意外と小ぶりの作品です。胴部の底面裏側には、「やつしろ」「扇山」の刻印があり、作者は肥後藩の御用焼物師であった上野東四郎(号:扇山)であることがわかります。本作は頭部と胴部で二つに分かれ、頭部の目・鼻・口端が貫通しており、香を焚くと、煙がここから煙が出る仕組みです。獅子の歯・眉・たてがみなど全体にわたって細かな造作が施されています。胴部には獅子の四肢も表され、前足は爪を立てていかにも強そうですが、後足の気の抜けた感じは愛嬌たっぷりです。本作は夏ごろまで常設展示室にて展示中ですので、ぜひご覧ください。



熊本の自然

金峰山の春の植物

熊本市の西側に位置する金峰山。春になって暖くなると活動を始める生きものが増えてきます。冬の間はやや寂しい様子だった遊歩道や車道沿いも、足元の草花から頭上の樹木・つる植物まで至るところで花が咲き、華やかになります。フィールド散策がとても楽しい時期です。

そんな春の金峰山で真っ先に咲くのが、ツクシショウジョウバカマです。春を感じる花として親しんでおられる方も多いのではないのでしょうか。葉はロゼット状に根元で広がり、すっと伸びた茎の上に白色~薄ピンク色のとても可愛い花をつけます。咲き始めから10日間ほどは花が見られるようです。花が次第に枯れていくにつれて、茎はさらに伸びていき、種子をつけ、すぐに翌年に向けての準備を始めます。茎の長さは花期の始め頃は10cmほどですが、最終的には30cm以上に達するものもあります。金峰山では、他の植物に隠れてやや日陰となるような道沿いでよく見られます。もともとはユリ科とされていましたが、近年はDNA解析に基づく新しい分類法によりシュロソウ科に分類されるようになりました。

博物館2階の生物展示エリアでは、ツクシショウジョウバカマを透明の亚克力に封入した標本を展示しています。通常の押し葉標本では、植物の色や立体的な形をお伝えすることはなかなか難しいのですが、亚克力封入標本では、本来生えている状態に近い姿をお見せすることができます。この他にも、金峰山に生息・生育している哺乳類や鳥類、昆虫など、たくさんの動植物の標本を展示しています。フィールド散策とともに、ぜひ展示室でもミニ散策をお楽しみください。



熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはくNEWS LETTER Vol. 4

発行 熊本博物館

〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL. 096-324-3500 FAX. 096-351-4257
kumamoto-city-museum.jp



くまはく

NEWS
LETTER

Vol. 4

おうちミュージアム
おうちで
たのしく
まなべる

気軽に
やってみよう!

博物館流 自然観察・科学工作 のススメ



熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

2020年4月

■ 展示報告

企画展「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・宮本常一 —熊本で見つけたモノ—

■ 通年講座報告

2019年度通年講座

■ イベント報告

天文講演会「ホットな宇宙を探る」

企画展講演会「きみの耳には恐竜がいて?! だから、きみは哺乳類」

くまはく誕生月間

■ 資料紹介

八代焼《灰釉獅子香炉》

■ 熊本の自然

金峰山の植物



肥後の見張り番
じゃちべえ

表紙紹介

気軽にやってみよう！ 博物館流 自然観察・科学工作のススメ

新型コロナウイルス感染症対策のため、色々なイベントが中止になったり、学校や博物館なども休校・休館したりしています。当館ホームページでは、お家の中やお庭などでできる科学工作や自然観察など、博物館流の楽しみ方を紹介していますので、ぜひ活用ください！

展示会報告

企画展『「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・宮本常一 —熊本で見つけたモノ—』

2月8日(土)～3月22日(日)
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため
2月28日に終了

近年、教育と地域を結ぶことの大切さが再認識されています。本展示会は、民俗学者・宮本常一(1907～1981年)を地域の教育のあり方を考えた人物として位置付け、今後の地域社会について考える機会を生み出すために開催しました。宮本常一は日本中を旅して歩き、庶民の生活文化を調べ、多くの記録を残しています。宮本は離島・山村を中心に農業指導や新生活運動、そして観光文化などによる地域振興にも努め、持続的な地域振興を図るため、若手の教育に力を注ぎます。宮本は熊本を訪れた際、阿蘇地方や天草地方など各地に足を運びました。その中でも、西合志村(現合志市)にあった農家の子弟のための私学校「合志義塾」に関心を寄せました。それは、地域に根ざした人材を育成する学舎だったからです。

本展示会では、宮本常一の直筆原稿や調査ノート、写真などを展示するとともに国指定重要有形民俗文化財「周防大島東部の生活用具」の一つである肥後犁も展示しました。また、宮本常一記念館学芸員・高木泰伸氏による講演会も開催しました。



通年講座報告

2019年度 通年講座

2019年度は5分野の通年講座を開講しました。実物資料を前に学芸員が解説を行ったり、野外へ出て観察会や遺跡巡りを行ったり、各講座さまざまな内容で楽しみながら学んでいただきました。



考古学専門講座(8回)

室内では考古学のバイブル『通論考古学』で考古学の基礎を学び、実際に土器に触れて1500年前を体感。屋外では古墳群や中世城跡などを歩きながら、遺跡の立地の理由を考えました。

民俗学講座(10回)

民俗の常設展示内容、雨乞い太鼓・肥後犁・トンボの造り物などを題材に熊本の民俗文化をわかりやすく講義しました。

地質学講座(6回)

化石・岩石・鉱物など、毎回地質分野の資料に関するテーマを定め、座学や標本を手にとって詳しく観察する室内学習を行いました。

動物学講座(7回)

身近な生きものの体のつくりや生態について、特にそれぞれの関わり合いについて考えながらの室内学習と野外観察会を行いました。

植物学講座(8回)

室内学習では身近な植物を中心に形態や仕組みなどについて紹介し、その他にも野外観察会や工作体験なども実施しました。

※雨天、新型コロナウイルス感染拡大防止等の理由により、当初の実施予定より回数が増ったものもあります。



2020年度も同様に講座を開講予定です。各講座とも定員はありますが、内容や空き状況によっては参加可能な場合がありますので、興味のある方はぜひ当館にお問い合わせください。

イベント報告

天文講演会「ホットな宇宙を探る」

2019年12月22日(日)



冬の天文講演会として、愛媛大学宇宙進化研究センター長の粟木久光氏を講師としてお迎えし、レントゲン写真で使われることで知られている「X線」はそもそもどのようなものなのかという説明から、X線天文学の基礎、最新のX線観測衛星の計画までたっぷりとお話いただきました。

X線天文学という言葉聞いたのは初めてという参加者も多かったようですが、「天体の周りのガスをX線で調べることでガスに含まれる成分がわかるのと同じように、陶器にX線を当てることで陶器に含まれる成分を調べることができ、産地までわかる。」など、身近な話題も交えながらわかりやすく説明をしていただきました。

人の目で見えている宇宙とは全く異なるX線で見える「ホットな宇宙」の世界に、参加者からは度々驚きの声が上がっていたのが非常に印象的でした。今年度も、引き続き研究者の先生をお招きしての天文講演会を実施予定ですので、ご期待ください。

講演会「きみの耳には恐竜がいて?!だから、きみは哺乳類」

2020年1月11日(土)



2020年、ねずみ年最初の講演会は、小型哺乳類化石の専門家である国立科学博物館の木村由莉研究員をお迎えし、私たち哺乳類につながる脊椎動物の進化についてお話をしていただきました。

当館で開催中だったコラボミュージアム「生命のれきし」展に展示中の化石はもとより、国立科学博物館の常設展示室にある標本の写真も交えて、骨からわかる動物の進化の歴史をわかりやすく教えていただきました。下あごが複数の骨からなる爬虫類と、一つの骨のみからなる哺乳類との違いの話の際には、参加者の子どもたちは自分のおごを触って確かめながら真剣に聞き入っていました。質疑応答の時間にはたくさんの質問があがり、講演会後も木村先生の前には長い列ができましたが、一人ひとりの質問にしっかり答えていただき、とても有意義な時間となりました。

くまはく誕生月間



熊本博物館が宇土櫓内に開館したのは昭和27年(1952)2月4日。そこで、2月は開館記念月「くまはく誕生月間」として、土日、祝日を中心にあくさんのイベントを開催しました。期間中はスタンプラリーを実施。1回ご来館いただくごとにスタンプを押し、三つ集めた方にはサメの歯化石をプレゼントしました!

企画展に関連した講演会や植物のタネを見て、触って、模型を作るワークショップのほか、フィールドへ飛び出し、野鳥観察会や熊本城歴史ウォーク、西南戦争遺跡巡りなども行いました。なかでも「惑星モビールを作ろう」や「紫キャベツ紙でカラフルお絵かき」のイベントは大人気で、整理券の配布開始後、すぐに定員いっぱいとなりました。

今回、初めて開催した「くまはく誕生月間」は、身近な歴史や自然に関するイベントが盛りだくさんで、ご参加いただいた皆様が作った工作物得意げに持ち帰る姿や新たな興味・知識を得て嬉しそうに帰って行かれる様子はとても印象的でした。たくさんのイベントに足を運んでくださった皆様、ありがとうございました。



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2/22以降のイベントは中止となりました。